ICT2024-14

教材・支援機器活用実践事例【ICT】

主体的な活動・学びにつながる ICT 活用
「献立作成とプレゼンテーション」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・高等部３年
	障がい名等	・知的障がい・自閉症スペクトラム
	子どもの実態（学習上又は生活上の困難さ等）	・発語はなく、身振り手振りや指差しで考えを伝える。現在簡単な手話を習得中である。 ・簡単な模写はできるが、文字の大きさの意識が難しく、枠から大きくずれてしまうことが多い。 ・自分の気持ちを伝えられない時や要求を受け入れてもらえなかった時に、泣いたり怒ったりする。
授業について（教材・教具を使用した授業や指導場面）	教科名等	生活単元学習
	単元(題材)名	単元名「育てた野菜で調理計画を立てよう」
	単元(題材)の概要	・育てた野菜を用いて作ることができる料理は何があるのか、また、その料理はどのように作るのかを調べて発表を行う。その際、「自分たちができる調理工程」に重きを置き、火や包丁を使わないものを調べるようにする。 ・Keynote を用いて調理献立を作成し、プレゼンテーションを行い、学級の調理実習で作る料理を決めるようにする。
教材・教具支援機器について	教材・教具 支援機器	 ①アプリ（DropTap） ②アプリ（Keynote）
	ねらい・工夫点	〈ねらい〉 ○適切な文字の大きさを意識したり、丁寧に書き出したりすることが難しい生徒が、「相手が見やすい資料」を作成できるようにする。（Keynote） ○発語がない生徒が身振り手振り以外の方法で、自分の考えを伝えられるようにすることで、学習に取り組む意欲や自己肯定感を高める。（DropTap） 〈工夫点〉 ・教師が手本を見せた後、実際に一緒に操作を行うことで操作方法を理解できるようにした。 ・Keynote に使用する写真とドロップタップで使用する写真を同一のものにすることで、音声読み上げ時にどこを押せばよいか分かりやすくした。
	材料・作成方法等	タブレット端末、アプリ（Keynote、DropTap 、Google、写真等）
子どもの変容や評価		・適切な文字の大きさを意識したり、丁寧に書き出したりすることが難しく、やり直しになると意欲が低下していた生徒だったが、文字入力にすることでやり直しが少なくなったり、やり直す時間が減ったりしたことで、最後まで集中して活動に取り組むことができた。 ・従来の発表の際には、文章を指差して教員に読み上げてもらったり、簡単な身振り手振りを行ったりするだけだったが、DropTap を使用することで、自分だけで発表することが可能になり、発表への意欲が高まった。

（令和６年度）